

速野の福祉

= 発行 =
速野学区
社会福祉
協議会



感謝の生活で、幸
せな毎日を過し
ています。



題字は、
木浜自治会の
勝見ツギさん
九十一歳の
自筆です。

大正十五年に洲本町で五人兄妹の末っ子として誕生されたツギさん。今は亡きご主人と共に田畑を守りながら、四人の子どもを立派に育ててこられました。しかし、たび重なる自然災害に見舞われ、農作物の大打撃を受け、大変苦勞されたことをしんみりと話してくださいました。

近年になって、書道を始められ、最近まで十数年間、熱心に努力され、京滋書道展に見事入賞されるまでに上達されました。

現在は、編み物をしてみんなにプレゼントをされたり、子どもたちやたくさんの孫たちに囲まれて楽しく会食をしたりして、幸せを感じておられます。

また、人生にとって大切なことは、「感謝の生活を送ること」であり、朝夕、仏様やご先祖様のお世話をされているとのこと。「人生の生き方」の大切なことをたくさん教えていただきました。



小学生福祉作文 受賞者の皆さん

☆優秀賞

二年 水本 華

三年 樋本 鈴

五年 藤本 優花

五年 穴見 梨湖

六年 木村 心菜

六年 炭谷 康太

☆佳作

一年 北村 真歩

二年 伴 莓

三年 津田 敬土

四年 西村 百夏

五年 升井 暖果

六年 井上 菜々美



豊かな体験が 豊かな心を育む

速野小学校 校長 大西健之



二十一世紀は心の時代と言われる。

戦後の日本は、豊かな国づくりを目指して経済成長を続け、「昨日より今日、今日より明日」がよりよい日々であることを願って精一杯働いてきました。そして、世界に誇れる豊かで安全な国を実現しました。しかし、現在の日本は「成長期から成熟期を迎えた」と言われています。「成熟」とは聞こえがいい言葉ですが、これ以上「成長」することが難しいことを意味します。「心の時代」と言われる理由がここにありませぬ。もの豊かなから心の豊かさを求める時代になったといふのです。

しかし、心の豊かさは、ものの豊かさに支えられていることが多く、貧しさが原因で起こる事件は後を絶ちませぬ。では、これからの時代を生きる子どもたちが、ものに頼ることなく「豊かな心」をもつためにはどのようなことが必要なのでしょう。

今回選ばれました福祉作文には、子どもたちが心のアンテナを精一杯働かせて、「人の心」に触れている姿を見て取ることが出来ます。子どもが持つ純粋な感性が、出会う人との細やかな心の交流を通して自らの心を育んでいることがわかります。「子どもの心が育つ」豊かな体験を、子どもたちに準備していくことが何よりも大切であると考えています。

小学生福祉作文



ともに生きるために

六年 木村 心菜



祖父母とふれ合う。祖父母との毎日。私は祖父母のことが大切で、祖父母も私のことを大切に思ってくれています。

私には、家が近い祖父母と家が遠い祖父母がいます。家が近いといつでも会いに行つて顔が見られるけれど、家が遠いとなかなか顔も見られないし、声も聞けません。それに、家が遠い祖父母はどちらも耳が聞こえません。なので、電話で話すことができませぬ。だから、私はテレビ電話で話すようにしています。そうすると、顔も見えず、声は聞こえなくても手話で話すことができます。家が近い祖父母のおじいちゃんの方は、最近もの忘れが激しくなっています。そのために、手術をしました。その手術は、頭の水を抜くもので、もの忘れはなくなることはないけれど、認知症の進行が遅くなる手術でした。なので、今もまだもの忘れは、残っています。何度も何度も同じことを言うので、時々イライラすることもあります。けれど、私がおこつて

しまうと、一番つらくて苦しいのはもの忘れが激しくなっていく自分なのに、せめられるとつと苦しくなってしまうので、私は、絶対におこらないようにしています。私だつてそんな時におこられるとすごくいやだし、苦しいからです。

私は、五月に学校で認知症講座を受けました。認知症講座では、道に迷い、どこに帰るのかわからない高齢者への接し方を学びました。もしも、道がわからなくて困っている高齢者の方がいたら、目を見てその人の高さに合わせてゆっくりとしゃべる。そして、近くの大人の人を呼んで警察に連絡してもらうということ学びました。

その後、六月に高齢者施設の「せせい苑」に行きました。わたしは、せせい苑と聞くと、おじいちゃんおばあちゃんばかりで、暗いイメージがありました。でも、みんなとても明るくて元気で、思っていたイメージと全然違つていて驚きました。私たちはグループを作つて認知症の方とふれあいました。リコーダーで曲をふくと、上手上手と喜んでくださいました。私たちのグループとふれ合った認知症の方の中には、手や足が動かさない人、しゃべることが難しい人、もの忘れのある人がいました。しゃべりたいのうまく話せない、すぐ忘れてしまつ、歩きたいのに歩けないことつらさが改めてわかりました。



私にこれからできることは、もし道に迷つている高齢者の方がいたら、声をかけ、認知症講座で学んだことを生かして案内することだと思います。今までなら、もしも迷っている高齢者を見ても、接し方がわからなくて声をかけられなかったと思います。でも、認知症講座で話し方を学んだことを生かし、もし出会つたら、迷わず話しかけていきます。

私は、最初に書いたように遠い祖父母には、なかなか会えませぬ。今までならお父さんがテレビ電話で話しているのを横から入つてしゃべっていました。なので、あまり長くはしゃべれません。だから、これからは自分から積極的に電話して、できるだけ長くしゃべりたいです。私の自宅から近くに住んでいる祖父母のおじいちゃんも最初に言ったように最近もの忘れが出てきています。でも、イライラしておこつてしまうと、一番つらいのはおじいちゃん自身なのに、おこられたことでもつと苦しくなるかもしれませぬ。わたしは、おじいちゃんにこれ以上苦しんでほしくないのです、どんなにイライラしても絶対におこらないようにしていきます。



◎総務委員会 2/16 館外研修

東近江市 東円堂
ボランティアグループ
「まどか」さんの活動
について学びました。



2/3 東近江市御園地区

社会福祉協議会来館
御園地区の皆さんが
研修にられました。
速野学区社会福祉協
議会の運営と活動につ
いて紹介し、互いの活
動についての交流も行
いました。



◎ボランティア部会

2/9 ボランティアのつどい

学区でお世話になっているサロンボ
ランティアのみなさんをお招きし、ボラン
ティアのつどいを開催しました。



◎地域福祉部会

2/1 在宅介護者のつどい

1部は交流会、2部は大合唱になりました。
リフレッシュして頂けたかな？



1/24 子育てボランティア研修会

体も心もほぐれるタッピングタッチを
参加者がペアになり体験しました。



◎福祉協力員連絡会

1/13 福祉協力員 館外研修 大津市の「まちなか交流館」見学

運営コンセプトの「人を育て、商いを育て
る畑」について研修しました。商店街の中
にあり、誰もが来館しやすい居場所づくり
を目指しておられました。



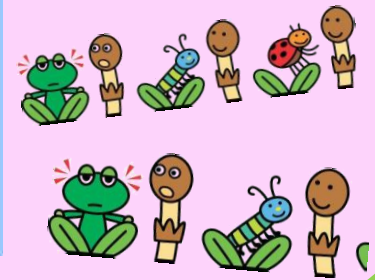
地域で見かけたホットな光景

1/15 中野小林自治会 ふれあいサロン
尺八、三味線の演奏に合わせ、炭坑節を踊りました。



1/25~1/29 材・バラガイター守山自治会

「さざなみ会主催」第6回作品展 おでんやおぜんざいいただきました。



お詫びと訂正 編集後記

今年度も地域の皆様のご理解とご協力のおかげで、四回の「速野の福祉」を発行することができました。ありがとうございます。この二年間、読んでいただきやすい広報紙をめざし、見出しの工夫、写真の掲載、地域の情報をより多く知って頂ける工夫をしてきました。今後もより親しんでいただける紙面作りに励んでいきたいと思っております。地域情報提供などのご協力をよろしく願います。



前号で掲載いたしました「5・5交流」の記事において速野幼稚園の名前が抜けていました。お詫びして訂正いたします。

速野情報箱

中野自治会

2/4
だれでも広場



節分のいわれを狂言と笑いで学習。特別養護老人ホーム「ゆいの里」からきていただきました。

2/11 昔遊び



だるま落とし、けん玉、坊主めくり、あや取り、おはじき、お手玉、折り紙、メンコ。20人近くの子どもたちが地域の皆さんと交流しました。

お知らせ

赤い羽根共同募金でハイブリッドファンを購入し、速野会館和室に取り付けました。

